

令和4年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

【理工学部】

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和5年2月8日	CHAmmiT参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、FD委員会委員、事務職員の計28名がZoomを使用し、学部提案書について1時間程度、実現に向けて意見交換を行い、FD委員会で検討しました。

2 学部提案書の対応について

学部を「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
成績開示が遅いため、他学部に合わせて早く開示してほしい。	○			令和2年度から成績表の配付を止めて、ガイダンス日以降は、ウェブで閲覧ができるよう改善しました。ガイダンス実施前の成績開示については、理工学部や短期大学の追試験日程や集中授業の関係から、一律に行うことは難しいですが、学科等の面談や編入学での推薦等で必要な場合は適宜所属学科に情報を開示して対応しています。
課題の評価基準としてルーブリックの設定・開示をしてほしい。			○	ルーブリックについては、理工学部の14学科でそれぞれの専門教育科目や一般教育科目を含めると、すべての授業でのルーブリック導入は難しいため、導入には至っていません。しかしながら、シラバスにおいて、授業科目ごとに「一般目標（GIO）」や「学修目標（SBOs）」や成績評価の方法・基準を開示しています。
課題の提出方法について、紙媒体かデータか提出方法を統一してほしい。			○	学科や各科目の特性等により、学部で統一することは難しいですが、教育効果等から紙媒体や電子（データ）提出をミックスさせることもあります。課題出題時期や提出方法等については、事前にシラバスに記載したり、科目担当者から授業内で説明するなど学生がわかりやすいように工夫するなどして対応したいと考えています。
課題が多すぎたり、難しすぎて終わらないため、適切な量であったり、問題設定してほしい。			○	授業科目の単位は、授業時間と学生が行う授業時間外学修によって構成されています。各科目担当者は必要な授業時間外の課題や予習等を学生に求めます。学科の特性や学生ごと履修状況によって、一律に課題の調整を行うことは難しいですが、学科によっては専門科目において学科内で課題時期をずらすなど調整しております。しかしながら、理工学部全学科や一般教育科目も含めて、調整することは困難であり、現状はできていません。
定期試験のフィードバックを行ってほしい。成績基準の明示やテストの答案内容を開示してほしい。			○	理解度確認期間における平常試験については、解説やフィードバックを行っていますが、定期試験についても、担当教員が解説動画等を開示して学生の理解が深まるように担当教員に改善を呼びかけるなど対応を検討したいと考えています。
「授業改善のためのアンケート」による改善案が学生に届いていない。	○			「授業改善のためのアンケート」の実施結果については、学期ごとに各学科等で集計し分析しています。また、その結果を「授業の改善に向けた取組」として学部ホームページに公表しています。科目ごと担当教員ごとの分析結果を直接学生にフィードバックする方法などは、今後の課題として検討しますが、今年度中の実施は難しいと思います。
教室設備の基準が定められていない。（コンセントやWi-Fiのスピード等を改善してほしい）		○		教室設備については、教室ごとに異なるため一律の基準は作成できません。コンセントについては、電気設備の関係上すぐの対応は難しいですが、今後どのような対応ができるのか検討していきます。Wi-Fiの通信設備は更新を行い強化し、Zoom用カメラの設置を行ったため、令和2年度よりオンライン（同時双方向）での授業の実施が可能となりました。今後も、学生の学習環境の改善に取り組んでいきます。
教員の問い合わせに対する返信が遅いので、講義に対する質問と単位や評価に対する質問などを分けて質問できる場所をCST-VOICE等に組み込むなど効率的に返信されるようにしてほしい。			○	理工学部では、掲示及びCST-VOICEにて大学からのお知らせについて発信しています。CST-VOICEでは、学生が教員に質問できる機能はありません。教員への問い合わせは、LMS-V1 Classroom等からもメールで行うことができます。CST-VOICEについては、今後学生がわかりやすいように機能を拡張していく予定ですので、そのような機能についても追加できるかを含めて、理工学部として検討していきたいと考えています。

令和4年度 学生FD CHAmMiT 学部提案書に基づく学生への回答書

【理工学部】

項目	対応済	対応中	未対応	対応内容
学生がメールの書き方や教員への質問の仕方がわからない学生もいるので、学生のメールでのマナーやフォーマットを教える機会を設けてほしい。	○			今年度の「自主創造の基礎」（1年生必修科目）では、コミュニケーション・スキルの錬成の一環として、インターネットやメールでのルールやマナーを含めたSNS上でのネチケットについて、1回分の授業を行っています。
大学や学部への不満を上げられる場所やそれを確認できる場所がほしい。	○			学科によっては、匿名で投稿できる目安箱を設置しており、対応している学科もあります。また、理工学部では、学部長の目安箱も設置して学生から直接意見や不満を上げられる場所を用意しています。しかし、現時点では、学科ごとや授業科目ごとなど細分化したシステムがありません。現時点では、ホームページのお問い合わせフォームを設置していることから、どのような形で実装できるか検討していきたいと考えています。

※令和5年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。

3 理工学部から学生へのメッセージ

日本大学では、FD活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成25年度より、16学部87学科、短期大学部4学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生FDや本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生FD CHAmMiT（ちゃみっと）」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から200名以上の参加者を得て開催しております。令和2年度及び令和3年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン（Zoom）開催いたしました。

第10回目となる令和4年度においては、対面又はオンラインのいずれかの参加方法を選択できるハイブリッド方式で実施いたしました。コロナ禍を経験した今だからこそ、改めて大学で学ぶ意義等について話し合い、自身が思い描いた大学生活の理想と現実のギャップについて、意見を出し合い、最終的に理想的な大学生活を送るために大学に求めたいことを学部単位でまとめ、「学部提案書」を作成いたしました。

これを踏まえて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、理工学部において学生との協議の場を設け、学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も理工学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。